



能登やさしいこめづくり情報

令和3年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

田植え編

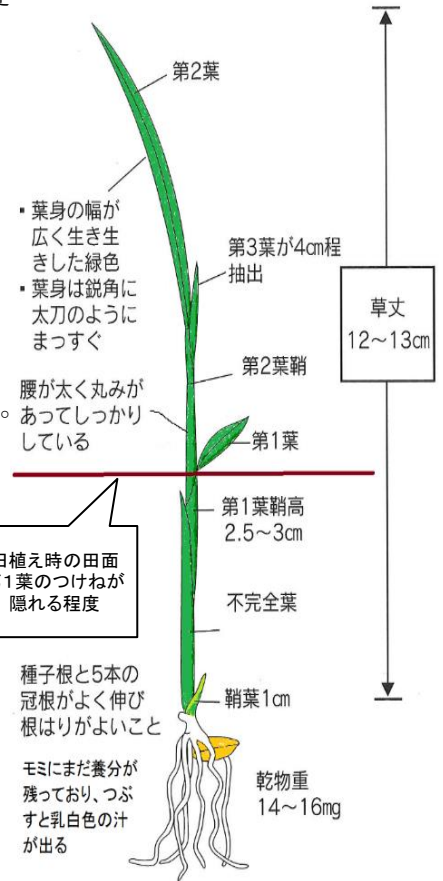
育苗日数1か月以内の健苗を 植え、分けつを確保！

1 健苗の準備

〔は種後1か月以内の健康な苗を田植え〕

- ・田植え後の活着や初期分けつの発生を良くするために、は種してから1か月以内の健康な苗を田植えしましょう。
 - ・種もみの中に養分の残っている状態の葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
- ⇒ 老化苗(育苗日数が長く、葉齢が進んだ苗)では、活着が遅れ、初期分けつの発生が遅くなり、優良茎の確保が難しくなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- ・田植えの4～5日前からは夜間もハウス側面を開放し、外気に慣らしましょう(順化)。

田植時の良い苗



2 代かき作業について【超重要】

- ・代かき作業は、田植え日や除草剤散布日を考慮して計画的に実施して下さい。
 - ・環境に配慮した「能登米」生産にあたり、代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう。
- 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所は早めに補修しましょう。
 - 浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しないようにして下さい。
 - 田植え前の「強制落水」は避けて下さい。

3 田植え作業について

- (1) 時期 : 登熟期の高温を避けるため、5月に入ってから行いましょう。また、低温、強風の日は控えて下さい。
- (2) 植付本数 : 3～4本/1株 ⇒ 太植えは、過繁茂を助長します。
- (3) 栽植密度 : 60株/坪以上
※中山間地・低地・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため、70株/坪として下さい。
- (4) 植付深さ : 2～3cm(第1葉が見える程度)の浅植え
⇒ 深植えでは、分けつや根の発生が遅れます。
- (5) 水管理 : 活着後は浅水管理(2～3cm)を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理とします。(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

- 田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認しましょう。

4 基肥施用について〔能登米コシヒカリ：化学合成窒素成分量 5.6 kg/10a 以下〕

- ・基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシー発	20～上限30	—
	BB けい酸パワー・コシー発くん	40～上限55	—
	BB 里山の香	45～上限53	—
	BB 新早生一発くん	—	35～40
分施体系	BB 高度056号	20～上限28	30～40

※ 施用量は目安です。ほ場の地力に応じて、加減して下さい。

※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守して下さい。

5 病害虫防除について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどの初期害虫や葉いもちの予防のため、防除を実施して下さい。
- ・昨年、6月下旬以降の低温多雨により、いもち病が蔓延しやすい年となり、管内でもいもち病の発生が確認されています。



イネミズゾウムシ

葉いもち

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
ツインパディート箱粒剤 (2成分)	は種時～ 田植当日	50 g/箱	いもち病、白葉枯病、内穎褐変病、穂枯れ、もみ枯細菌病、イナゴ類、ヒメトビウンカ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロココバイ、イネツトムシ

※ JAからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。重複散布しないよう注意して下さい。

※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

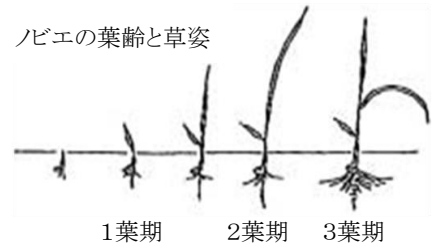
6 除草剤の使用について

- ・雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。
- ・湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。除草剤の効果を十分発揮させるため、田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4～5cm)を保ちましょう。
- ・散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態(4～5cm)を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。なお、やむを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行って下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数 (平年の場合)	羽 咋	7日	12日	16日	20日	23日
	志 賀	8日	13日	17日	21日	25日
	七 尾	8日	13日	17日	20日	24日

ノビエの葉齢と草姿



※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
初期剤 1成分	マーシェット1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ1葉期
	ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
中期剤 3成分	マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15日(稲5葉期以降)～ノビエ3.5葉期

残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期	
初中期一発剤 2成分	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	エンペラー1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	コメット	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
	3成分	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期
		アップラズ フロアブル	500mL	田植後3日～ノビエ3葉期
		ジャンボ	400g	田植後3日～ノビエ3葉期
サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期		

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤 1成分	※多年生雑草が残った場合 アトリ1キロ粒剤	1kg	田植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期
	※ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15日～55日(落水散布)

能登米コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載の剤は使用可能。他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認してください。「能登米コシヒカリ」以外の品種は除草剤の指定はありません。

7 補植について [補植苗はいもち病の発生源となるため、すぐに処分]

- ・20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ち、欠株分をカバーするため減収にはつながりません。やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい。

⇒ 散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。

- ・補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去して下さい。